

運動の楽しさや価値に気づき、豊かなスポーツの実践ができる生徒の育成

○佐々木 篤史

1 研究主題設定の理由

学習指導要領では、体育の指導を通して「豊かなスポーツライフ」に繋げていくことが強調されている。継続的に運動に親しむために、基本的な知識・技能の上に、経験から得た根拠のある振り返りや仲間にアドバイスができる力が必要であるとする。また、体育の見方・考え方を働かせ、運動の価値に気づき、自他のウェルビーイングに繋がる人との関わり方や実践力を育てることが、現在及び将来の生活を健康で活力あるものにしていくものと捉えた。

2 保健体育科で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
○知識と技能を関連付けたり、往還したりする中で、課題解決につなげる力 ○運動観察の方法を理解し、運動のポイントを言語化する力 ○各領域・種目等で横断的に技能を活用する力	○課題解決の視点を共有し、論理的かつ客観的に運動を検証する力 ○自己や仲間の課題を的確に捉え、計画や方法を見直す力	○積極的に他者と関わり、運動ができた楽しさを仲間と共有する態度 ○フェアなプレイにつながるルールやマナーを重視したり、仲間や相手の健闘を称えたりする態度 ○運動を通して、多様な他者と合意形成するための関わり方を見いだす力

3 研究内容

視点① 個別最適な学びと協働的な学び

体育の学習では、個やペア、グループ、チームなど、様々な形態で目標の設定を行い、課題を解決していく。その過程で、お互いを尊重し、合意形成を図り、技能を高めたり、自己の役割を見つけたりして、よりよい運動や価値の発見につなげていくことを目指している。課題を解決するために必要な知識や基本的な技能、ゴールに迫るための手立てを生徒と共有しつつ、協働的な問題解決を促していきたいと考える。単元のゴールに迫るためには、運動開始前の自己の技能を的確に捉え、経験や得た知識を基に課題解決の方法を吟味し、その方法の修正を繰り返していくことが必要となる。そこでの経験を他の領域や種目にも適合させ、自己の中での“つながり”を意識して学んでいく中で、初めての運動に対しても見方・考え方を働かせ、運動観察と自己の感覚の組み合わせを行っていくことが重要となる。

そのために、単にスポーツを競技レベルで素材のまま扱うのではなく、生徒の実態に合わせ、真にそのスポーツの楽しさを味わえるような教材の準備が必要となる。特に球技を授業で扱う際には、生徒に身に付けさせたい力を明確にし、実際の活動と最終的なゴールがしっかりと結びつくように単元を構成していく。そして、集団として高めた戦術や作戦が試合の中で発揮されることが、共によりよい動きをつくり上げたという達成感や次への意欲に繋がるため、生徒自身が自己の力を的確に捉え、与えられた枠組みの中で果たすべき役割を見だし、チームに貢献することができたという実感を得られるように授業を展開していきたい。それが運動やスポーツへの知的興味をさらに深め、生涯にわたって豊かなスポーツの実践ができる生徒の主体性を育むことにつながると考える。

視点② 教科等横断的資質・能力の育成

運動分析や科学的な根拠をもとにしたアドバイスを生かして、技能の向上を図るために、特にICT機器を活用した分析の仕方や映像の加工、相手に解りやすく伝えるスキルを各教科で育てていく。また、暗黙知である運動感覚を言語化し伝える中で、相手意識をもちながら、自分の言葉で説明することに挑戦させていきたい。

視点③ 評価の充実

オリエンテーションを通して、保健体育の授業で目指す姿や単元のゴールを生徒と授業者が共有できるように努める。その中で形成的評価を充実させ、特に努力を要する生徒については、そのつまずきに寄り添い、教師や仲間の支援により、成長を実感できる場面をつくっていく。また、“よりよくできる”生徒を増やすために、運動や自己の特性を的確に捉えさせ、自ら課題解決の方法を吟味し修正できるような授業の内容を構築し、それを見取っていききたい。